【第 6 回 カーボン・オフセット大賞】

受賞団体の取組概要

カーボン・オフセット推進ネットワーク（CO-Net）

第 6 回 カーボン・オフセット大賞

【環 境 大 臣 賞】

株式会社スーパーホテル

スーパーホテル公式 HP 予約による宿泊（エコ泊）のカーボン・オフセット

～泊まって、感じる、Lohas なホテルを目指して～

同社の公式ホームページから予約されたお客様の宿泊を対象に、宿泊 1 泊当たりの電気・水道使用に伴う CO_2 排出量を算定し、利用室分の CO_2 排出量をカーボン・オフセットする取組。このカーボン・オフセット付宿泊サービス「エコ泊」は、2010 年 3 月から全店舗で提供を開始し、今年で 6 年目を迎える（2016 年 10 月現在、全国 115 店舗）。本環境貢献型の取組開始当初は CO_2 排出量の 25%のオフセットであったが、オフセット比率を段階的に引き上げ、2014 年からは排出量の全量、100%オフセットに拡大して実施。

2013 年度以降は岐阜県や富山県において創出された J-VER を活用し、日本国内の森林整備による吸収量増大の取組や温室効果ガス排出削減の取組を応援することにより、地域の活性化にも貢献している。これまでにオフセットに活用した J-VER 総量は 17,000 t-CO_2 以上に及ぶ。

同社は、2011 年に環境省のエコ・ファースト企業の認定を受け、環境への取組を、多様性を拡大させながら実施しており、自社でできることは自ら実践し、顧客を巻き込み、地域や関係会社と連携して取り組む、そうした真摯な行動を、「エコ泊」のカーボン・オフセットの取組においても、削減努力として実践してきた。社内では「自社が排出する CO_2 に責任を持つ」という基本方針に基づき、水道・光熱の使用量削減や節水型シャワーヘッド、LED 照明等の省エネ機器の導入等により、CO_2 排出量をできる限り削減。宿泊客に対しては、公式 HP からの予約時やチェックイン時に、「エコ泊」の利用が地球温暖化対策に貢献していることを伝え、ペーパレスチェックインやアメニティ削減、連泊の際の清掃（シーツカバー等の交換）を行わない「エコひいき」活動の推進、また朝食の際のマイ箸利用の促進といった宿泊者参加型の環境負荷の低減のための取組を行っている。

また、活用するクレジットの創出先において、社員向けのエコツアーを実施。森林管理に関する講義や、伐採現場、木工所などの見学、地域課題解決のためのワークショップなど参加・体験型のプログラムを通して、社会貢献や環境保全の大切さを学び、社員から顧客に向けてカーボン・オフセットの取組が発信できる様、社内教育にも力を入れている。

第 6 回 カーボン・オフセット大賞

【経済産業大臣賞】

宮古島観光協会、宮古島トライアスロン委員会

スポーツイベントによるカーボン・オフセットの普及

～選手参加型カーボン・オフセット活動～

本大会の開催地である宮古島は 2008 年に『エコランド宮古島宣言』を行い、その翌年には『環境モデル都市』として政府から認定を受けた常夏の島。このような背景がきっかけとなり、同島で開催されるトライアスロン等のイベント参加者の来島に伴い排出される CO2 をカーボン・オフセットすることで、地球温暖化対策への取り組みに乗り出した。

具体的な取り組み内容は、エコアイランド宮古島マラソン、全日本トライアスロン宮古島大会において、「イベント開催による参加者の移動」、「参加者の島滞在」に伴う CO2 総排出量をカーボン・オフセットするというもの。大会参加者のエントリー費用にカーボン・オフセット料を含めるという画期的な企画と盛り込み、イベント参加者のカーボン・オフセットに関する理解と協力が裏付けとなり【参加型カーボン・オフセット】を実施してきた。

地元住民・企業が連携協力して宮古島マラソンにおいて、カーボン・オフセットを実施・運営することにより、温暖化対策の一手段であるカーボン・オフセットという社会貢献活動の開催地である宮古島市内にも広く普及することに寄与した。また、国際的な大会である全日本トライアスロン宮古島大会でカーボン・オフセットを実施することで、国内外へのスポーツイベントにおけるカーボン・オフセットの積極的な PR を展開している。

第 28 回全日本トライアスロン宮古島大会（2012 年）からカーボン・オフセットを導入し、これまで 5 年間にわたり継続してきた。一方、エコアイランド宮古島マラソン大会は第 4 回大会（2013 年）からカーボン・オフセットを導入し、こちらもこれまで継続してきた。これまでの両大会参加者累計は 1 万 2 千人以上に達し、本取組みに関わった地域住民や企業関係者数を加えると、同数以上の参加者がカーボン・オフセットと言う温暖化活動を認知したことになる。

これまでカーボン・オフセットに活用したクレジットの種類は、国内に流通する J-クレジット、J-VER、国内クレジットの中でも、削減系のクレジットを中心に全国各地から調達し、これまでのクレジットの総使用量は約 2 千トンに達する。

第 6 回 カーボン・オフセット大賞

【農林水産大臣賞】

日南町

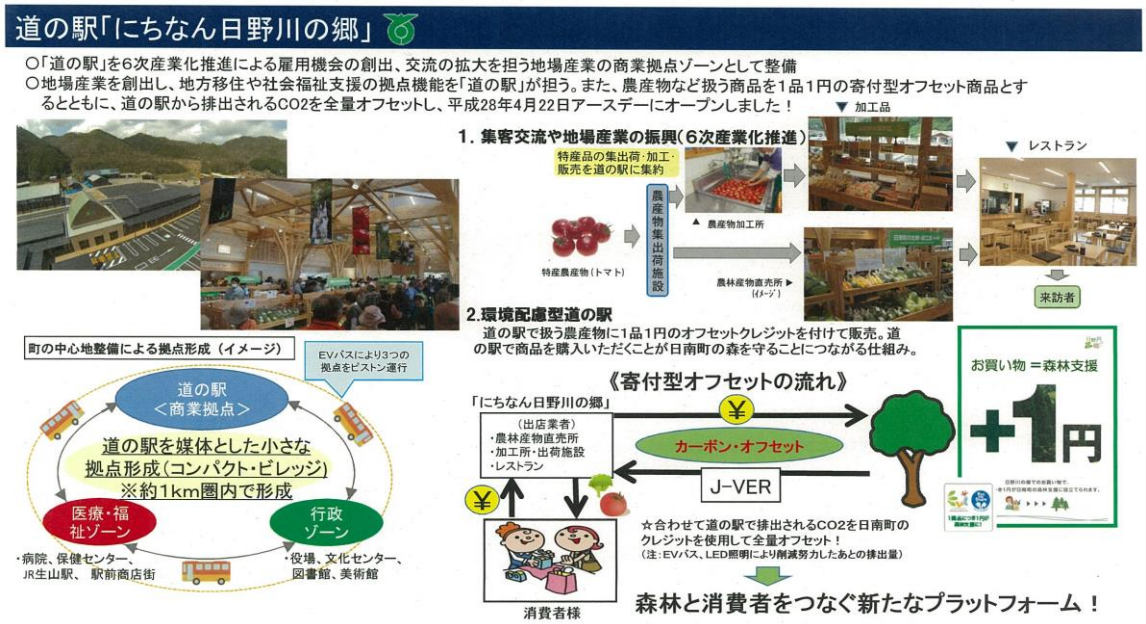
日本初！カーボン・オフセット道の駅『にちなん日野川の郷』

CO_2排出量ゼロ！お買い物を通してカーボン・オフセット！

平成 28 年 4 月 22 日の『アースデー』にオープンした道の駅『にちなん日野川の郷』は、その施設の運営で排出される CO_2 全量をカーボン・オフセットする全国初の CO_2 排出量実質ゼロの環境・生態系に配慮した『道の駅』となっている。さらに道の駅で取り扱う全ての商品（生鮮品、加工品）を対象に、寄付型のオフセット商品として1品1円分のクレジットを付与。使用するクレジットは、地元日南町の FSC（Forest Stewardship Council：森林管理協議会）認証林から創出された J-VER を活用し、道の駅で商品を購入すると日南町の豊かな森林を保全する活動に直接貢献できる仕組みとなっている。この仕組みが今後、全国各地のクレジットを保有する自治体の玄関に設置された道の駅へモデルとして波及拡大することが期待される。

日南町では、町内森林面積の約 57％が FSC 認証を受けており、環境・生態系に配慮した持続可能な林業、生態系保全に積極的に取り組んでいる。また、『日南町地球温暖化防止実行計画』を自治体として独自に策定し、2030 年度において CO_2排出量を 2013 年度の水準と比較して 26％の削減を目指しており、『コンパクトビレッジ構想』に伴う行政ゾーン・医療福祉ゾーン・道の駅を巡回するバスなどの公共交通機関に EV 車輌を導入、一方、道の駅では全ての照明器具を LED 照明に転換することによる CO_2 の排出削減にも積極的に取り組んでいる。

同道の駅オープン前には、商品の出荷者である地元住民・参加企業にカーボン・オフセットという温暖化対策に係る説明会を数回にわたり開催し、『この取組がわたしたちの暮らしを支える森林を守っていくことにつながる活動ならできる限り協力したい』との賛同を得て、行政だけでなく、地元住民、参加企業の理解・協力によりカーボン・オフセットに取り組んでいる。また、道の駅の店内には消費者に日南町のカーボン・オフセットの取組を伝えるために、値札ラベル、レシート、寄付型オフセット月別累積表示など、視覚的にも分かりやすい『見える化表示』を心掛けている。さらに、道の駅の中に設置された全国のカーボン・オフセット商品を集めた特設ブースは、全国のカーボン・オフセット商品の普及にも貢献している。



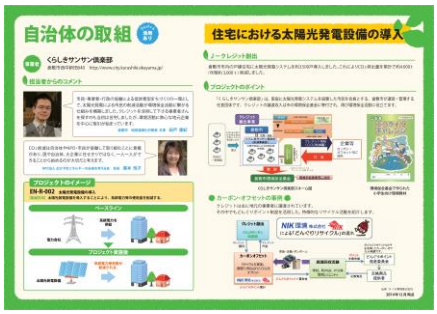
第 6 回 カーボン・オフセット大賞

【優 秀 賞】

倉敷市

倉敷市におけるJ－クレジットの地域内循環の実現
倉敷市民発！サンサンパワーで地域活性化！！

倉敷市民（くらしきサンサン倶楽部）による GHG 排出削減分をクレジット化するという「市民参加型」のプロジェクトにより創出したクレジットを倉敷市内の企業が活用するスキームを構築し、クレジットの地域内循環による地域の活性化を目指したカーボン・オフセットの取組を平成 22 年から実施。クレジットの地域循環を実現・展開することで、倉敷市民の GHG 削減取組への参加を促し、環境貢献への意識向上、啓発効果が期待される。今後もカーボン・オフセットを更に発展させ、倉敷地域の低炭素化を推進する。



富士フイルム株式会社

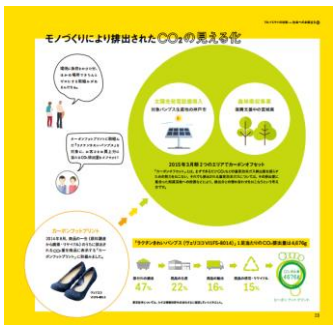
アスタリフト（化粧品）購入によるカーボン・オフセット
お客様とともに CO_2 削減推進（化粧品購入で日常生活 1 日分の CO_2 削減に寄与）

環境保全意識が高い女性向けに、カーボン・オフセットによって「身近な化粧品を購入することで無理なくCO_2 削減に貢献できる」機会を提供し、環境省の推進する「COOL CHOICE」と併せてCO_2 削減につながる行動を促進する取組。日常生活1日分のCO_2排出量を消費者に知ってもらうため、一商品あたりのカーボン・オフセット量を6kg-CO_2に設定。過去の販売実績による試算から、同取組によるCO_2削減効果は約4,700 トン（1年間で杉の木34万本分の植林木によるCO_2吸収量に相当）と、CO_2 削減に大きく貢献している。

株式会社丸井グループ

マルイのプライベートブランド『ラクチンきれいパンプス』によるカーボン・オフセット
～お客さまと一緒に取組むマルイの環境・社会貢献活動～

対象期間中にマルイ店舗やマルイウェブチャネルを通じて消費者が購入したカーボンフットプリントパンプスの足数分の CO_2総排出量をカーボン・オフセットするという取組み。クレジットは東日本大震災の被災地、対象のパンプスの生産地であり、阪神淡路大震災の被災地でもある神戸それぞれのクレジットや、開店した博多マルイの地元、福岡県のクレジットを活用。小売業ならではの特性を活かし、多くのステークホルダーにカーボン・オフセットを知ってもらい、社内外の認知度の向上にも貢献した。同社は 2009 年よりカーボン・オフセット商品を発売して以来、毎年度同オフセット活動を継続している。



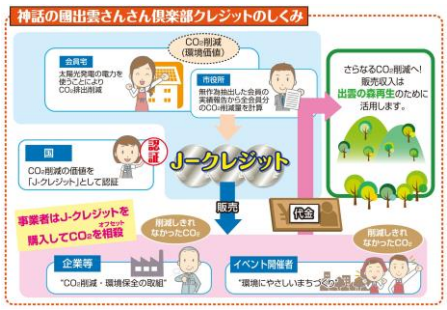
第 6 回 カーボン・オフセット大賞

【奨 励 賞】

出雲市

出雲市発！J－クレジットを活用した地域活性化

出雲市では、「神話の國出雲さんさん倶楽部」により創出されたJ－クレジットを出雲市内の地域企業が活用する、地域の産業振興を目指したカーボン・オフセットの取組を 2015 年度より本格的に実施してきた。クレジット活用による収益は、松枯れや獣害等の影響により荒廃が見られるようになった出雲大社背後の八雲山をはじめとする森林の再生事業に充当している。地方においては、自治体による率先行動が一層重要との認識のもと、企画・提案段階からリーダーシップを取り、関係者を巻き込んだ同取組の拡大を狙っている。



NPO法人　環境共棲住宅　地球の会

広げよう！深めよう！繋げよう!緑のバトン「木の家づくり」を通じたカーボン・オフセット運動
地域工務店・建材事業者が取り組むカーボン・オフセット運動

同会に加盟する全国各地の地域工務店 11 社と建材会社 2 社による住宅構造材や建材に係るカーボン・オフセットの取組。同会会員企業が創出した J-VER を活用。大半の会社が、カーボン・オフセットに関する知識がほとんど無い状態から、地域で実現可能な循環の在り方を考えながら、自己資金を投入し、トライ&エラーしながら実施してきた。クレジット創出者もその販売量に応じた間伐材を活用した木工グッズをオフセット実施者に還元することで循環の理念を強調。同会の中で創意工夫をしながら、自走で取組の輪を広げることができる体制を整えている。

東京美装興業株式会社

東京美装興業 「カーボン・オフセット　付き　メンテナンスサービス」

緑地メンテナンスサービスや清掃メンテナンスサービスにおける作業現場へ往復移動、草刈等の作業、枝木統の収集運搬において排出される温室効果ガスを対象とし、カーボン・オフセットを導入し、2010 年より「カーボン・オフセット付きメンテナンスサービス」を展開。オフセットには、東日本大震災で被災した東北 3 県にて創出されたクレジットを活用し、環境保全だけでなく、被災地復興支援も兼ねた複合的な取り組みとなっている。カーボン・オフセット付きメンテナンスサービスを利用した顧客には、そのことを証明する看板を作成し、敷地内に掲示してもらうことでカーボン・オフセットの一般市民への普及啓発にも貢献している。

第 6 回 カーボン・オフセット大賞

【奨 励 賞】

第一カッター興業株式会社

「ゼロをつくるプロジェクト」
カーボン・オフセットを利用して「工事を通じて環境貢献」という新しい付加価値を創出

環境負荷が大きいというイメージをもたれがちである工事の分野において、多数のステークホルダーを巻き込んだカーボン・オフセットの取組。「はつり工事」「床磨き工事」の 2 つの工事において建設機械から排出される CO_2 を対象にカーボン・オフセット認証を取得。また、ノベルティに関しても、製造、輸送工程において排出される CO_2 を対象にカーボン・オフセットを実施。工事の発注者にはオフセット証書を発行することで、当該工事における環境貢献量を示して環境に関する意識の醸成を図っている。グループ会社でもカーボン・オフセット付サービスを数年前から継続して実施しており、グループを通じてカーボン・オフセットに積極的に取り組んでいる

マテリアルバンク株式会社

カーボン・オフセットを通じた地域貢献と被災地支援
～環境に優しい廃棄物処理の実現！！～

2015 年度の産業廃棄物処理業務に係る CO_2 排出量全てをカーボン・オフセットし、環境配慮という面において廃棄物処理業界をリードしている。クレジットは地元岡山市で創出されたクレジットと被災地である岩手県で創出された J-クレジットを活用。ほぼ毎日街中で目にする資源収集車に、岡山市独自の「岡山市 J-クレジットロゴマーク」を付けることで、地域の環境貢献事業の活性化と廃棄物業界におけるカーボン・オフセットという温暖化対策活動の普及促進を目指している。また、自社の再資源化施設で製造している木質チップの製造過程における CO_2 排出量実質ゼロという付加価値を付けて製紙会社などに供給している。

第 6 回 カーボン・オフセット大賞

【特 別 賞】

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

山の日カーボン・オフセットキャンペーン
富士山周辺のマイカー規制＋カーボン・オフセット
はじめての「山の日」に CO_2 削減キャンペーン

静岡県・山梨県を舞台に、今年から祝日となって初の「山の日」に行ったカーボン・オフセットキャンペーン。マイカー規制期間中に富士スバルライン・富士山スカイラインを通行する車輌から排出される CO_2 量を算定し、最も登山客が多くなる 8 月 11 日から 8 月 15 日の 5 日分を 2013 年に世界遺産に登録された富士山周辺の地元事業者の CO_2 削減・吸収活動によって創出されたクレジットを調達することでカーボン・オフセットを実施。カーボン・オフセットの取組みに賛同した NPO 法人をはじめ、企業、富士山を有する自治体等、様々な立場の参加者が連携し、各者が情報発信を行ったことでカーボン・オフセットの普及に貢献した。